

the IDF World Diabetes Congress 2022, Lisbon and online

## 参加記

岐阜大学医学部附属病院 第三内科  
今井理紗子

### 1) はじめに

岐阜大学医学部附属病院糖尿病代謝内科/免疫・内分泌内科の今井理紗子と申します。私は2021年に入局し、現在専攻医として臨床に携わらせて頂いております。学会に関しましては、これまで国内の学会において上司の先生方の暖かいご指導のもと、症例を発表する機会を何度か頂くことができました。国際学会に関しては、研修医の頃はほとんど考えたこともなかったように思います。専攻医になり、以前糖尿病に関する国際学会に参加し発表もされた先輩方に、お話をお聞きしたり、当時の写真を見せて頂く機会がありました。他国には、特有の食生活や宗教背景など日本とは異なる習慣がいくつもあり、糖尿病患者さんの指導や治療も様々であるとお話を聞き、とても興味深く感じていました。そのお話をきっかけに、いつか自分も糖尿病の国際学会に参加してみたいな、と少し憧れるようになりました。そして今回、国際学会参加についてお声がけを頂きました。The International Diabetes Federation (IDF) は国際糖尿病連合で、170の国と230を超える全国糖尿病協会の統括組織です。今回 IDF の学会にオンライン参加させて頂きましたので、私が学んだことなどをご紹介します。

### 2) 学会参加を通じて感じたこと学んだこと

普段の臨床においては、肥満の2型糖尿病患者さんを診察させていただく機会がございます。しかし減量がなかなか困難である方も多く、患者さんと共に治療方針について悩むことも多いです。その中で、2022年12月には当院で初めての肥満減量手術である腹腔鏡下スリーブ状胃切除術が施行されました。今回 IDF に参加させて頂くことで、主に肥満の2型糖尿病患者さんの診療に関する国際的な知見を得ることを目標としました。

まず、当院で初回手術が施行された、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を受けた120人の糖尿病患者の調査についての報告がありました。6ヶ月以上の追跡調査にて60%の患者が治療を終了でき、またHbA1cとBMIは有意に低下したことが報告されています。また、糖尿病の罹病期間が5年未満の方が有意に体重減少の程度が大きいことがわかっており、早期の手術加療が望ましいことがわかりました。

また、メトホルミンで治療されている肥満 2 型糖尿病患者において、DPP-4 阻害薬のシタグリプチンと GLP-1 受容体作動薬のルチドそれぞれを加える群にわけて脂質プロファイルを観察した研究では、リラグルチド群の方が有意に脂質の値の低下が得られたとの報告がありました。したがって、GLP-1 受容体作動薬の方が、脂質プロファイルの改善が大きい 可能性があると考えられました。肥



写真1 オンライン視聴中

満の患者さんは脂質異常を合併することが多いため、今後の治療選択に生かしていきたいと考えました。また、今後本邦でも処方可能となる、GIP/GLP-1 受容体作動薬のチルゼパチドという新薬がありますが、減量効果が GLP-1 受容体作動薬の既存薬を上回ると言われています。そのチルゼパチドに関する、SURPASS1-4 という臨床試験において、15%以上の体重減少を得られるための事前予測因子に関する報告がありました。チルゼパチドの容量以外の事前予測因子として、女性、白人またはアジア人、経口血糖降下薬を使用中であること、HbA1c が低値であること、非 HDL コレステロールが低いこと、などが挙げられていました。また、経口血糖効果薬で血糖管理目標未達成である 2 型糖尿病患者を対象とし、チルゼパチドとインスリングルルギンを比較した試験では、チルゼパチドの方が HbA1c が有意に低下することがわかりました。肥満の 2 型糖尿病患者さんに対する、チルゼパチドの効果はかなり期待できると、今回の学会参加で改めて実感しました。

### 3) おわりに

今回初めて国際学会にオンラインにて参加する機会を頂き、普段の臨床にて担当させて頂く肥満の 2 型糖尿病患者さんに関する治療の、国際的な最新の知見を知り得ることが出来ました。今後は、今回の国際学会参加で学ばせて頂いたことを普段の臨床の現場で生かしていきつつ、糖尿病内科医としての経験を積んでいきたいと考えます。

最後にこれまで多大なるご指導いただきました多くの先生方に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。